

日本語教育と私

水谷 信子

水谷でございます。お茶の水女子大学には86年から95年まで、9年間おりました。その最初の時は、留学生のお世話の仕事をしていました。今お話になりました許先生も留学生としてここにいられて、私が最初でうろうろしている時に、色々と留学生の事で許さんには大変お世話になりました。今日、お顔を見てお話を伺う事が出来て、本当に嬉しいと思います。

その後、日本言語文化専攻というマスターコースが出来まして、優秀な卒業生が沢山出ました。ドクターの方では、人間文化研究科の方にもちょっとお邪魔してましたけれども、やめる2年位前から新しい国際日本学のようなものを作るというお話が度々出まして、私も何かとお役に立ちたいと思いましたが、何も出来ないうちに終わらして、今回新しい国際日本学専攻が出来た事を伺って、本当に嬉しく思います。

先程市古先生がおっしゃってました発信型という事はいつも大事な事だと思っております。特にこれだけ日本文学、日本文化、日本人の知恵というものが、盛んにこの大学でも研究されているのに、それがもっと世界に出ていかないのは残念だと普段思っております。

私は、一昨年から明海大学という浦安の埋め立て地にあります大学に参りましたけれども、そこでも去年から日本語研究の専攻のマスターコースが出来まして、その学生が昨日ここへ来たんだそうです。私は授業がずっとありまして来られませんでしたけれども、そのこのこれからの日本語教育についてというシンポジウムを聞いてきて、ちゃんとその成果を報告してくれました。今日は本当にわくわくして参りまして、その期待を裏切らない良いお話を伺う事ができました。厚く御礼を申し上げたいと思います。

最後につまらない事ですけれども、私が4年前にやめました時には、この部屋の壁はもっと地味な色だったと思います。これを見まして、まあ、夜明けの様、と思ひまして、新しい国際日本学の夜明けではないかと思ひます。その夜明けの景色は、見方によると日暮れにも見えるかも知れませんが、そんな事がないように、それから途中で停電するというような困難もあると思ひますけれども、私はこれが夜明けの景色だと思ひて喜んで帰らせて頂きます。どうもありがとうございました。